

ヨシから見た琵琶湖の環境

おうみきょうだいしや 近江兄弟社中学校 一年 くぼた りょうた 窪田 凌大

ぼくは、琵琶湖が好きです。家族で夏に泳ぎに行ったことなど、楽しかった思い出がいっぱいあるからです。他にも、水がきれいで飲むことができたり、生物がたくさんいたりして、すごいと思います。小学五年生のときに行った「うみのこ」では、琵琶湖のことを深く学ぶことができてよかったです。

特に、一番心に残っているのは、「ヨシ」です。ヨシとは、イネ科の植物で、河川や湖沼の水際に背が高い群落を形成しています。琵琶湖の辺りにも、群落を形成しています。メダカなどの小さい魚の産卵場所になったり、小鳥が巣を作って生活しています。それだけでなく、琵琶湖の水を浄化しています。水の中にあるちっ素やリンを吸収しています。植物なのに、いろいろなことができるなんて、知りませんでした。ヨシについて、とても興味がわきました。

父にさそわれて、ぼくはヨシガリのボランティアに参加しました。長そで、長ズボン、長ぐつ、手ぶくろで行きました。ヨシの切り口がするどいので、長ぐつの底に穴が空くと聞いて、こわいと思いました。実際、かまを使ってかってみると、かたく、なかなか切れず時間がかかりました。かたいヨシを何本も切りました。それらをたばねました。ヨシは長く、束ねると重いので、大人と一しょに運びました。やってみて、とても大変でした。ヨシガリはヨシがかれている、冬でないといけないので、2月に行きました。最初は寒かったけれど、やっていると体が熱くなりました。

なぜヨシをかるのかという理由は三つあります。一つ目は、水をきれいにするためです。琵琶湖の中にあるちっ素やリンを吸収したヨシをかることで、それらを取り除くことができるからです。二つ目は、次の新しい、良いヨシが生えてくるようにするためです。三つ目は、よしずなどの生活用品として利用するためです。ぼくの家にも、よしずや建具などがあります。よしずがあると、日差しがさえぎられて、夏すずしくすごせます。

しかし、よしずは中国産のヨシを使っていることが多いです。最近では、ヨシを使った製品をあまり見かけません。がんばってかったヨシも使われていないと思うと、ぼくは悲しい気持ちになります。

ある時、買い物をしていると、文房具売り場に「ヨシノート」と書かれているノートを見つけました。すごく気になったので、そのノートを作っている「コクヨ」のホームページを見ました。

ヨシをコピー用紙やノートなどの工業製品の材料として使用しています。ヨシパルプー〇〇%の名しやヨシ筆ペンがあります。二〇一四年には琵琶湖や滋賀の観光、特産品をテーマにした土産文具「びわこ文具」を発売しました。琵琶湖博物館と製品の共同開発・環境こうけんへの市場の創造をしています。売上の一部を地元の環境団体に寄付し、ヨシの保全活動に役立てています。

このように、ヨシそのもので使うのではなく、ヨシをちがう物に変えて利用することができるなんて知りませんでした。ヨシをうまく活用していけば、ぼくたちの生活も豊かになると思います。それだけでなく、琵琶湖の環境も良い状態で保たれると思います。

ヨシを大事にしていくことが琵琶湖を大事にしていくことにつながります。ヨシノートを選んで買ったり、ヨシガリボランティアに参加するなど、ぼくが身近でできることをしていきたいです。また、自分自身をもっとヨシなど琵琶湖のことを知っていきたいです。